協働のための アクションプラン22 ～手を取り合って未来をつくる～

～手を取り合って未来をつくる～

アクションプランとは？

「鎌ケ谷市協働のためのアクションプラン22」は、市政運営の基本方針である「鎌ケ谷市総合基本計画」に則り、鎌ケ谷市が協働と市民公益活動の推進に向けて実行するアクションをまとめた個別計画として位置づけています。

これらのアクションを市民と共有することで、多様な主体と行政が地域課題の解決に向けて手を取り合うための「コミュニケーションツール」としての役割を担っています。

また、計画の期間を令和3年度から令和8年度までとしていましたが、検証の結果、「市民とともにつくる協働の4つの未来像」は、多様な主体と協力してまちづくりをするうえでの大切な目標として今も変わらないものであるため、計画期間を区切らずに、未来像を実現する取組みとともに引き継いで行くこととしました。鎌ケ谷市は今後もこのプランに沿って、協働と市民活動を進めていきます。

「共同」、「協同」、「協働」の違い

「共同」 対等な関係の人が２人以上集まり、何かの物事に取り組む様子を表す言葉ですが、特に同じ条件や資格による集まりを指しています。また、必ずしも集まった人同士が意識的に力を合わせる必要がなく、お互いの目的や考え方が異なっている場合や、たまたま力が合わさっている場合でも、２人以上が同じことを行っていれば「共同」という言葉を使用します。

「協同」 ともに心と力を合わせて何かの物事に取り組む様子を表す言葉ですが、「共同」と違い、同じ条件や資格による必要がなく、目的や利益が一致している際に用いられます。また、お互いに協力するという精神面を強調する際に用いることが多く、「協同」組合などで使用されます。

「協働」 「協同」と同様に、同じ目的に向かって力を合わせて物事に取り組む様子を表す言葉ですが、特にお互いの得意分野やできることを活用して協力する場合に用いられます。また「協働」は、行政と市民など、形態が全く異なる者同士が協力する場合によく用いられ、「協働のためのアクションプラン２２」でも、多様な主体間で協力し合うことを「協働」と表現しています。

市民とともにつくる協働の４つの未来像

1 多様な人（主体）の連携が相乗効果を生み出す

市民、市民公益活動団体、自治会、事業者、行政、教育機関など、多様な主体が連携して、相乗効果を生み出しながら、鎌ケ谷市の地域課題の掘り起こしや解決をしています。

2 市民が地域の活動を知り、誰でも気軽に参加できる

地域活動に関心がある市民だけでなく、鎌ケ谷市に引っ越してきたばかりの人やこれまで地域との関わりが少なかった人にも情報が行き届き、気軽に参加してみようと思えるような仕組みができています。

3 市民公益活動団体が組織力を上げ、持続的な活動ができる

市民公益活動団体が、事業者、行政、教育機関などと対等に連携できる組織力を持ち、持続的な活動ができています。

4 行政が協働に向けて取り組める体制を強化している

行政の主要な担い手である鎌ケ谷市の職員（以下「市職員」という。）が、協働に対する知識、意欲、スキルを持ち、多様な主体との連携を強化することができています。